

教員採用および大学院合格編

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

やまぎし みゆう
山岸 未悠 (中学校 (保健体育) 北海道 (旭川明成高等学校出身) (広島大学 人間社会科学部研究科教師教育デザイン学プログラム))

この度、北海道教員採用試験を受験し、合格をいただきました。
名桜大学で学ぶ中で、教員という仕事の魅力ややりがいを改めて考えることができ、強い意志を持って教員採用試験に挑むことができました。どんな教員になりたいのか、子どもたちをどんな姿に成長させたいのかを繰り返し考え、自分自身の教育観の核を作ることが教員採用試験へのモチベーションになりました。ともに高め合える仲間や支援して下さる先生方は大きな存在となります。周りへの感謝の気持ちを忘れずに、教員採用試験の準備期間を自分の可能性を広げられるような充実した時間にしてください。

大学院合格編

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

たまよせ ゆい
玉寄 由依 (大阪教育大学 連合教職実践研究科高度教職開発専攻 援助ニーズ教育実践コース) (沖縄県立向陽高等学校出身)

私は「子どもの居場所を作りたい」「子どもに寄り添い共に成長できる養護教諭になりたい」という思いから、沖縄で養護教諭になることを目指しました。現代的な教育課題を抱える子どもたちへの関わり方や支援についてより専門的に学びたいと考え、大学院を受験しました。大学院では専門性の向上と新しい視点の習得に努め、将来は学校現場において連携・協働を大切にしたい実践につなげていきたいです。進路に迷う時は、自分の思いを大切に、周囲に頼りながら挑戦してほしいです！応援しています！

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

くしべ ともか
串部 智佳 (千葉大学大学院 教育学研究科学校教育学専攻 芸術・体育系) (千葉県立国府台高等学校出身)

この度、千葉大学大学院教育学研究科学校教育学専攻芸術・体育系に合格することができました。大学院進学は、大学入学当初から考えていたのですが、教育実習を経験したことで、その思いはより明確なものとなりました。大学生活では、学業をはじめ、やらなければならないことが多くあります。中でも、時間と心の余白をつくることが重要であると考えます。やるべきことの優先順位や自身の容量を考えながらも、やりたい全てのことを諦めず、手に入れて欲しいです。皆さんの努力を、心から応援しています。

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

あおやま こうせい
青山 浩晟 (鹿屋体育大学大学院 体育学研究科体育学専攻) (鹿児島県立志布志高等学校出身)

私はこの度、鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻に合格しました。卒業論文を通して研究への関心が高まり、大学院進学を決めました。外部大学院への挑戦で情報が少なく不安もありましたが、先生方に連絡を取り、話を聞くことを大切にしました。試験に向けては、ゼミの先生に支えていただきながら準備を進めました。部活動の最後の大会や卒論と重なる忙しい日々でしたが、言い訳をせず、最後までやり切った経験は今後につながる大きな財産になりました。

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

まにわ りほ
馬庭 梨帆 (岡山大学大学院 教育学研究科) (島根県立出雲高等学校出身)

この度、岡山大学大学院 教育学研究科に合格いたしました。
養護教諭という専門性の高い職に就くことへの不安があり、大学院で学ぶことで知識を深め、実践力を身につけたいと考え、進学を決めました。学びを通して、子どもに寄り添いながら、適切にサポートし、信頼される養護教諭を目指していきたいです。後輩の皆さん、教員採用試験対策や卒業研究論文など大変なことも多いと思いますが、先生方や信頼できる人時には頼り、感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

～教員養成支援センターご利用案内～

利用時間*平日(月曜日から金曜日) 8:30~17:00 休館日*土曜日・日曜日・祝祭日 場所*名桜大学 本館4F
※長期休業中も利用可能です! TEL*0980-51-1560

教員養成支援センター

だより

第39号

2026年3月12日発行
編集・発行:名桜大学教員養成支援センター
所在地:沖縄県名護市宇留又1220-1

聴き合う関わり

2026年度より、本学で取得できる教員免許状の種類に、国語中学校・高等学校一種免許状、社会中学校一種免許状、公民高等学校一種免許状が加わりました。長年、国語教育の現場に従事してきた筆者にとって、ここ名護市に立地する名桜大学で国語科の教員を目指す学生が増えるであろうことは喜びです。が、教員という職業が10年ほど前から「ブラック」という言葉と結び付けられ、また、文部科学省が毎年発表している「公立学校教員採用試験の実施状況」では、全校種合計の採用倍率が年々低くなってきているという現状は至極残念なことであり憂慮すべきことです。

ここ数年、ある村の中学校の授業を参観させてもらっていますが、教室に入るたびゆったりとしたあたたかい空気を感じます。その教室の風景は、グループワークの協働の学びが進められ、一人一人が友達の声を聴こうという姿勢を見ることが出来ます。あたたかい空気のもとはその聴き合う関わりにあるのだなと思うのです。

思想家・武道家の内田樹はトークライブ (YouTube) で「小さな声でつぶやくように言いよどみながら語る言葉はとっても大事、それを語ることができる、聞き届けることができる、対話的な環境を作ることって、今の学校教育において生命線に近いことである」と言っていました。その通りだと深くうなずきました。居場所感のある空間は授業においてとても大事な環境です。

また、教育学者・心理学者でもある秋田は居場所感と夢中を保障する授業について「対話を通して居場所感が生まれ、安心してその場に居ていい、自分に担う役割があるとその場で学びをひきうける感覚が芽生えて初めて、子どもたちは自らを開示し学ぶことができる。そこに探求的な心が動き、深い学びが生まれる」(秋田, 2014, p.4) と述べています。聴き合う関係が学びの出発点なのです。

「一人一人の学びを保障する」ことは、並大抵ではありません。ですがこのような授業を積み上げていくことで、学びが保証されていくものだと思います。子どもたちの未来が見えてきます。

先の中学校で1年生の国語「トロッコ」(芥川龍之介)の授業観察を行った際、初発の感想で「なんで足袋を脱いだのか、自分の判断で男たちについていったのに、最後泣きだしたのか。」と書いたAさんは、最後の授業「本文から読み取ったこと(根拠)をもとに、自分の考えをまとめよう」では、交流を通して考えが深まったことについて次のように書いています。「大人の良平の心情、8歳のときの心情、私には考えることができなかった良平の孤独、恐怖を考え深めることができた。さらに同じ場面だけど、他の人の意見を聞くと、その場面の良平の心情がもっとよくわかった。8歳の良平は暗い中一人で不安で仕方がなかったけど、泣くのを我慢し、父や母とやっと会えたとき今までの怖さ、疲れなどが一気に押し寄せてきて、何度泣いても足りないぐらいで、それがトラウマレベルだったから、塵労に疲れているとき、あのときの疲れと似ているから『大人になった良平』は『そのときの彼』を思い出すのだろう。」40字程度だった感想が、最後の感想では500字近くに増えました。この文章から対話を通しての居場所感そして探究的な心の動きを見ることが出来ます。

結びに教育学者の佐藤学の言葉を紹介します。「これからの時代に求められる学びはどのような学びなのか。子どもたちの現在から将来にわたる幸福を実現する学びは、どのような学びなのかを問い直す必要がある。これからの時代を生きる子どもたちに最小限必要なことは、学びが大好き、探求が大好き、協同が大好きで、生涯を通じて学び続けることができることだろう」(佐藤, 2023, p.85) 教員を志すみなさん、一緒に教育について考える機会があることを願っています。

リベラルアーツ機構 特任教授
久高 利美子

文献
秋田喜代美(2014)対話が生まれる教室。教育開発研究所
佐藤学(2023)教室と学校の未来へ。小学館

卒業生から後輩たちへのメッセージ ～合格体験記～

教員採用編

国際学群 語学教育専攻 4年次

ロカニト（中学校・高校（英語）静岡県）（藤枝明誠高等学校出身）

私は、沖縄県と静岡県の教員採用試験に挑みました。そのために前年度の教員採用試験対策講座に参加し、講座の内容をベースに学習に取り組みました。2つの自治体を受けることにより、学習範囲が広がることや日程が異なること、モチベーションを保つことなど多くの困難がありました。しかし、自分のペースを確立し、採用試験の本質を掴むことで、一次試験は満足いく結果となりました。二次試験では惜しくも沖縄は残念な結果となりましたが、これまでの学習が自信へと変わり、この経験を今後の教員としてのキャリアに生かしていきたいと考えています。後輩のみなさんも自身のペースを確立して頑張ってください！応援しています！

国際学群 語学教育専攻 4年次

橋本 遥妃（中学校・高校（英語）東京都）（三重県立伊勢高等学校出身）

この度、東京都教員採用試験を受験し、合格をいただきました。教員採用試験に向けて、積極的にボランティア活動に参加し、子供たちと直接関わる経験を積み重ね、自分の目指す教師像は何かを考えることを大切にしました。学習面では、試験日から逆算して計画を立て、過去問に繰り返し取り組むことで知識の定着を図りました。採用試験は長期にわたり不安を感じる場面も多いですが、一人で抱え込まず、友人や北部教員養成講座の職員の方々、ゼミの先生方に積極的に頼ることも大事です。教員採用試験までの道のりは厳しいですが、自分を信じて頑張ってください。これから教員採用試験に挑む皆さんを心より応援しています。

国際学部 国際文化学科 科目等履修生

佐藤 康介（中学校（英語）栃木県）（栃木県立栃木高等学校出身）

この度、栃木県の教員採用試験において、中学校英語教諭として合格することができました。私は、大学2年生から参加している「子どもの居場所づくり」のボランティアを通して、子どもの成長に関わることに大きなやりがいを感じ、教員を目指すようになりました。一次試験対策では、過去問題を10分繰り返し解き、間違えた問題は必ず復習することで、出題傾向や自身の課題を明確にしました。二次試験対策では、志望動機や、留学・ボランティア活動での経験などを言語化するとともに、教育時事への関心を高めました。対策を進める中で、受験を共にする仲間と情報を共有し、励まし合いながら取り組むことの大切さを強く感じました。皆さんも周囲の支えを力に、最後まであきらめず頑張ってください。最後に、ご指導・ご支援くださった教職員の皆さま、共に学び支え合った同期の皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

国際学群 語学教育専攻 4年次

和田 英龍（中学校（英語）鹿児島県）（鹿児島県立鹿屋高等学校出身）

この度、鹿児島県の中学校英語教諭を受験し、無事に合格することができました。大学3年後期から、講座に通わせていただきながら、日々の生活とのメリハリを意識して、学習に取り組みました。受験を通して、自身の教育に対する思いと改めて向き合い、今後につながる学びを得ることができました。不安を感じることも多くありましたが、先生方や仲間たちの存在が大きな支えになりました。心より感謝申し上げます。これから受験を迎える皆さんも、自分を信じて、頑張ってください。心から応援しています。

国際学部 国際文化学科 科目等履修生

杉村 美桜（高校（英語）神奈川県）（島田樟誠高等学校出身）

この度、神奈川県教員採用試験で高等学校の英語を受験し、無事に合格することができました。採用試験に向けて大切なことは準備です。試験対策の準備はもちろんのこと、きちんと計画を立てることが1番大切です。どの時期にどのような試験があるのか、人によってひとつの自治体を受ける人もいれば、複数を受験する人もいます。他の人の意見に流されず、自分はどうしたいのか考えてください。私自身、複数の試験を受けて全て受かった訳ではありませんが、きちんと結果を残せたのは計画をしっかりとたてていたことと、それによって最後までメンタルを保つことができたからだだと思います。採用試験に向けて頑張ってください。応援しています。

国際学群 語学教育専攻 4年次

池堂 彩音（中学校（英語）北九州市）（私立鹿児島純心女子高等学校出身）

この度、北九州市教員採用試験を受験し、無事に合格することができました。これまでご指導いただいた先生方、そして多大なご支援をいただいた教員養成支援センターの皆様、心より感謝申し上げます。私は、大学1年生から継続して取り組んできたボランティア活動を通して、子どもの成長を身近に感じられる教員という職業の魅力を実感し、教員を志すようになりました。試験勉強では、復習を重視した学習方法を取り入れ、「分からない」を一つ一つ「分かる」に変えていくことを大切にしてきました。また、採用試験までの道のりは長く、モチベーションを維持することが難しい時期もありましたが、共に努力する仲間が存在が大きな支えとなり、最後まで諦めずに取り組むことができました。採用試験に向けた道のりは決して平坦ではありませんが、仲間と支え合いながら、教員を目指した原点を忘れずに頑張ってください。心から応援しています。

国際学群 語学教育専攻 4年次

尾田 慎之助（中学校（英語）熊本県）（熊本マリスト学園高等学校出身）

この度、熊本県の教員採用試験で中学校英語科教諭を受験し、合格することができました。教員採用試験を通して、大学での授業一つ一つの積み重ねが合格の土台になっていると実感しました。講義や演習で学んだ教育に関する知識や考え方は、筆記試験の理解や面接で自分の考えを述べる際に大きな支えとなりました。後輩の皆さんには、目の前の授業を大切に、自分なりに考えながら学びを積み重ねてほしいと思います。その日々の努力が、必ず将来につながるはずです。

国際学群 語学教育専攻 4年次

姫野 景介（中学校（英語）大分県）（大分県立大分鶴崎高等学校出身）

この度令和8年度大分県教員採用試験を受験し、合格することができました。私が合格することができたのは、毎日少しずつでも継続できたからだと思います。長い道のりである為、気分が乗らない日もありましたが、環境を変え、取り組む内容を変えるなど工夫することで継続することができました。二次試験対策では、何度も面接練習をすることで、自分の目指す教師像がより具体的になり、改めて自分を見つめ直すことができました。採用試験は長期戦です。学習を継続するためにも健康第一で無理をし過ぎず頑張ってください。最後に、新城先生をはじめ、名桜大学や教員養成講座の先生方、教員養成支援センターの職員の皆様のご指導ご支援がなければ、合格することはできませんでした。ありがとうございました。

名桜大学大学院 スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 修士課程 1年次

武田 晃太郎（中学校（保健体育）長崎県）（長崎県立佐世保西高等学校出身）

この度、長崎県教員採用試験を受験し合格をいただきました。授業に部活、バイトなどにより時間は限られてます。その中でも、言い訳せずただひたすらに積み重ねていく。難しいのは承知で継続する。とにかくやることです。面接練習に付き合ってくださった濱本先生、勉強中にしばしばレッドブルを差し入れてくださった奥本先生。ありがとうございました。現場に出るまでの残り1年間を猶予期間としないよう、目指す教師像を胸に一貫性をもって研究並びに陸上に邁進してまいります。

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

松本 可歩（中学校（保健体育）愛媛県）（愛媛県立松山中央高等学校出身）

この度、愛媛県教員採用試験を受験し、合格することができました。試験に向けて、挫けそうな日もありましたが、仲間の頑張りや背中を押され、最後まで取り組むことができました。自分に足りない部分を考え、学習支援ボランティア等を通じ、様々な子どもたちと関わる経験を重ねました。勉強は少しずつでも早めに取り掛かり、自分に合う勉強法を見つけることが大切だと感じています。名桜大学には、頼れる方がたくさんいます。様々なことに挑戦し、全力で取り組んでみてください。陰ながら応援しています！

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年次

兒玉 大成（中学校（保健体育）鹿児島県）（鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校出身）

この度、鹿児島県教員採用試験を受験し、合格をいただきました。試験対策において、試験全体の出題傾向を把握し、それに基づいた対策を行うことが重要です。早期から過去問に取り組み、自治体特有の傾向を理解したうえで学習を進めることで、効率的に力を伸ばすことができました。ゼミの先生や共に合格を目指す仲間の存在は大きな支えとなるため、感謝の気持ちを忘れず、積極的に頼りながら準備を進めてほしいです。最後に、試験対策は合格のための手段にとどめず、自身の知識を広げ、自己形成につながる学びとして取り組んでみてください。陰ながら応援しています。